

第23回 AI 社会論研究会のお知らせ

AI 社会論研究会事務局 佐野仁美

sfc-ai@sfc.keio.ac.jp

- 日時：4月20日18時から（22時終了予定）
- 場所：東京駅直通 新丸の内ビル10階 21世紀クラブ コラボレーションスペース <http://www.egg-japan.com/access>
- 主催：JST RISTEX 法・経済・経営と AI ロボット技術の対話による将来の社会制度の共創
- 共催：慶應義塾大学 SFC 研究所 AI 社会共創・ラボ
- 講演者：① 玉川大学 大森隆司先生
② 筑波大学 石井夏生利先生
③ 慶應義塾大学 新保史生先生

○内容：

- ①大森隆司先生 18:00～18:30（予定）

・発表タイトル：人の認知状態推定する AI 技術の可能性とリスク
・概要：人工知能の一つの重要な応用は、例えばロボットによる対人サービスである。対人サービスを円滑に行うには、ユーザーの心の状態の認識や感情変化の予測が不可欠であり、そのような人間観察技術が開発されることは不可避であろう。そして、いずれは学校や病院、保育園や介護施設などにそういう装置が常設される日が来る可能性は否定できない。そのとき、そのような人間観察をする装置を社会はどう考えるだろうか？また、そのような装置の社会実装を可能とする条件はどのようなものだろうか？本日は、我々が行っている幼稚園での子どもの行動の観察装置の開発と応用可能性について紹介し、このような議論のきっかけとしたい。

・プロフィール： 東京大学工学部卒業，東京農工大学，北大を経て 2006 年

より玉川大学教授.

第二次ニューラルネットブームを経験し、その後に脳科学・認知科学に足をつっ込みながら、脳と認知と情報の境界領域で研究してきた.

最近は、子どもを観察する AI 技術による保育支援に興味を持っている.

現在は、玉川大学学術研究所長、日本認知科学会前会長、日本神経回路学会会長

②石井夏生利先生 18:30~19:40 (予定)

・タイトル：**AI とプライバシー・個人情報保護に関する法的論点**

・概要：AI・ロボットとプライバシー・個人情報保護に関する法的論点を紹介する。具体的には、EU、米国、カナダ、日本の議論状況に触れつつ、プロファイリング、差別的決定、透明性の欠如、通知・同意の無意味化といった論点を紹介し、予測不可能な AI の発展に対して、プライバシーや個人情報を保護するための法的対応がどこまで可能であるかを考える。

・プロフィール：中央大学大学院法学研究科国際企業関係法専攻博士後期課程修了、博士(法学)。2004年11月以降、情報セキュリティ大学院大学助手、助教、講師、准教授を経て、現在は筑波大学図書館情報メディア系准教授。

③新保史生先生 (慶應義塾大学総合政策学部教授、慶應義塾大学 SFC 研究所 AI 社会共創ラボ共同代表) 20:00~21:00 (予定)

・発表タイトル：「**法・経済・経営と AI ロボット技術の対話による将来の社会制度の共創**」プロジェクト 2016 年度研究報告と新年度計画発表

④21:00~ 全体でのディスカッションタイム